

塔南高校開校から、新校に至るまで。

塔南高校は、昭和38年4月に洛陽・伏見両高等学校の普通科生徒を受け入れる形で、京都市南区吉祥院観音堂町の現在地に設置された。校名の「塔南」は東寺の五重塔の南側に立地することが由来である。これまでの卒業生数は21,759名（昭和40年度～令和2年度）。一時は在籍生徒総数が1,900名を超える、おもに京都市南部地域の生徒の学習保障と人格形成を担う市立高校として使命を果たしてきた。平成19年4月には、次代の教育を担う優秀な教員を育成することを目指し、全国初の教員養成専門学科「教育みらい科」を設置。これまでに多くの卒業生が教員として活躍している。

一方で、交通の便が悪く、施設面では校舎の大半が築50年以上経過し、耐震補強が必要となっており、また市立高校内で最も狭隘な環境である。こうした立地や施設上の課題等について検討を進めていたところ、平成28年4月の京都工学院高校の開校に伴い、元洛陽工業高校跡地が活用可能となった。

それに伴い、平成26年8月に元洛陽工業高校の同窓会である洛陽京工会から「洛陽跡地は学校施設として活用いただきたい」旨の要望書が、同年11月には、塔南高校の同窓会、PTA役員経験者等で組織されている愛校会、PTA、塔南高等学校の4団体から「洛陽跡地へ塔南を移転いただきたい」旨の要望書がそれぞれ教育長へ提出された。こうした経過や関係団体からの要望も踏まえ、塔南高校を洛陽跡地に移転・再編することで塔南高校を取り巻く様々な課題解決を図りつつ、平成9年の「京都市立高等学校21世紀構想委員会答申」から始まる市立高校改革の実践をもとに、充実した教育環境の下で、新しい普通科教育のモデルを京都から発信することを目指し、新普通科系高校を開校する。

新校に引き継ぐ 塔南高校での教育実践

教育みらい科の取組

小学校現場実習や教育課題探究をはじめ、高い教養と人間性、しなやかなコミュニケーション力など、教員養成の取組を通して培った教育実践の成果は新校に引き継いでいく予定です。

（教育みらい科は令和4年度入学者選抜をもって募集を停止します。）

未来デザインプログラム

企業・大学等に訪問し、対話を通して自分の将来の姿を描く「未来デザインプログラム」を、キャリア教育や地域連携の要として実施しています。

新規に連携してくださる地域企業や大学は、随時募集中です。

レジリエンシー プログラム

困難な状況でも成長のチャンスとして捉えて乗り越えていけるようなスキルを身に付けるトレーニング。国の機関であるRISTEX（社会技術研究開発センター）の「SDGsの達成に向けた共創的開発プログラム」の採択プログラムに、研究校として参加しています。

ボランティア活動

放課後まなびサポートや地域の清掃活動など、様々なボランティア活動に取り組んでいます。

また「防災ボランティアセンター」として、地域の防災訓練や吉祥院小学校での防災キャンプへ参画するなど、地域と連携した防災活動も行っています。



新普通科系高校の所在地 (南区唐橋)

〔公共交通機関からのアクセス〕

- JR西大路駅から徒歩約5分
- 市バス「西大路駅前」から徒歩約5分
- 市バス「九条御前通」から徒歩約3分

発行元（御意見はメールでお寄せください）

京都市教育委員会 新普通科系高校開設準備室
住所：〒604-8161

京都市中京区烏丸通三条下ル饅頭屋町595-3
大同生命京都ビル7階
TEL：075-222-3811 FAX：075-222-3751
mail：2023newhs@edu.city.kyoto.jp

京都市立新普通科系高校 令和5年4月開校予定



新普通科系高校では、生徒たちがいきいきと未来を歩んでいけるよう、多様な人々との「学び」を楽しみ、自由な発想で考え方行動する力を育む新たな高校教育の姿を実現したいと考えています。

検討中の学校構想についてお知らせしますので、御意見などがございましたら、下記のメールアドレス宛にお寄せください。

<お問合せ先>

京都市教育委員会 新普通科系高校開設準備室

mail：2023newhs@edu.city.kyoto.jp

※いただいた御意見等について

今後の参考とし、また個人情報を伏せて公表させていただく場合がございます。

なお返答はいたしませんので、御了承ください。

HPは
こちら



主体的に行動し、協働する。

急速に変化する未来社会を生きる生徒たちに、どのような力をつけることが幸せな人生につながるだろうか？このような問い合わせから学校づくりは始まりました。

どんな社会が到来しようとも、未来を見据えつつ、その場の状況に応じて主体的に判断し、学びながら行動し、他者と協働しながら乗り越えていく。そんな力が必要となるのではないでしょうか？

新普通科系高校では、そうした力を育成することを教育活動の基本に据えた学習を行います。

そのためには、学校内だけで学びを完結させず、地域や大学、企業等にまで学びの場を広げ、生徒が多様な方々と出会いながら成長することを目指す教育課程を編成します。

学びの方法が変わる

～「先生が教える」学校から「生徒が学ぶ」学校へ～
決められたことを決められたとおりに答える力ではなく、知らないことや課題に対して、自分なりの問い合わせを立て、自分なりの方法で答えを探っていく。教科・科目の授業においても、生徒のそのような「学びたい」という意欲をかき立てる探究的な学習を行います。

学びの支援が変わる

教員は、探究的な学習の伴走者となり、生徒の問い合わせを引き出す役割を担います。1つのL-pod（右記参照）での活動は複数の教員で指導し、生徒を多面的にサポートし、生徒一人ひとりに応じた学びを支援します。

制服

制服の一部は指定しますが、自分で服装を考える仕組みを検討中です。

学校生活

生徒会、文化祭、体育祭など、生徒自身が創り上げます。

夢中になる活動 アリーナ

公立高校最大規模、バスケットボールのフルコート2面分の大きさがあります。

多様な部活動

野球部、吹奏楽部など塔南高校で活発な部活動に加え、生徒達が主体的に企画・活動できる部活動のあり方を検討中です。（例えばシーズン限定部や週1運動部など）

授業が 変わること

ICTの活用

自分のタブレット端末を購入していただき、高校生活を通して、日常的に様々な活動で活用します。（令和3年度塔南入学 生は「Surface Go2」を購入）

社会と関わり 学びを実践

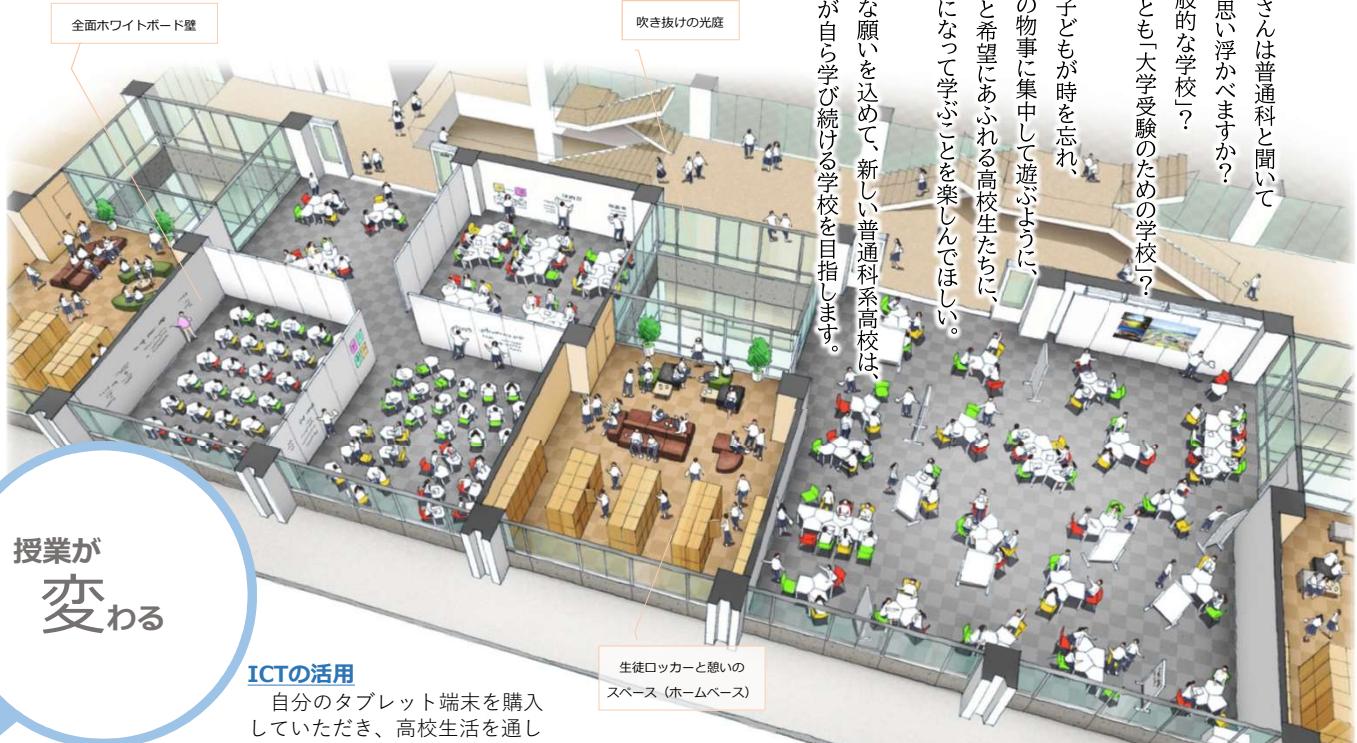
カフェテリア

市民の皆さんにもご利用いただけるカフェテリアを併設します。

地域協働スペース

市民の皆さんにもご利用いただき、生徒たちとの協働活動を行うことが出来る図書館1階のスペースです。図書の閲覧もしていただけます。

これが、新しい普通科。



学びの形が変わる～ラーニングポッド（通称L-pod）～

教室のサイズ・形態を自在に変化・転換し、授業の目的や活動内容によって、多様な学習活動を展開します。

教室4つ分の広さのスペースで80～90人の生徒が学びます。
可動式ホワイトボード壁を使用し、意見やアイデアを書くなど自由な発想を楽しむことができます。

校名検討の方向性

- ①地域と京都の歴史を表すものとして、例えば市立学校の校名に多く取り入れられた平安京の条坊制などに由來した校名。
- ②由来や漢字の持つ意味が、京都の歴史と未来への展望を表すものであり、新しく創設する学校の校名にふさわしい校名。
- ③新しい高校に通う生徒はもとより、保護者や地域の方をはじめ市民の皆さんに親しみを持ってもらえる校名。

校名検討の進め方

新しい高校として創設するため、新たな校名を教育委員会で検討中です。有識者の方からのご意見も参考に校名案を作成し、京都市会での議決を経て、正式に決定します。

みなさんは普通科と聞いて何を思い浮かべますか？
「一般的な学校」？

それとも「大学受験のための学校」？